

# オルタナティブ考

～ローカルな場所で起こる同時多発的な、  
あるいはネットワーク化された出来事などなどについて～

服部 浩之

[キーターム]

あそび、捏造、既成事実化、集積（アーカイブ）

目的；場所とそこで生起する出来事の関係性を構築すること

生活圏の再考、場の生成

→基本は飲み会・パーティ、宿泊所（人と人の距離を変革、関係のフラット化）

→個人の余暇の延長にある遊びとゆるさ

→定義しない、組織化しない、運営しないというスタンス

→個人のネットワークの重層、世界とのダイレクトな交渉

## そもそもオルタナティブとは？

何に対してのオルタナティブ（代替）なのか？

公共文化施設でできないことを実現する場所？

実施している人はオルタナティブだと思ってやっているのか？

→とりあえずオルタナティブと言われるようなことをやっていると思われる  
人に会って話を聞いてみたら、色々分かるのでは？

→山口から青森の移動が決定

→本州縦断中に様々な場所を訪問するプランを飲み会の席で話す（半冗談）

→artscape編集部からリアルタイムでレポートするよう依頼発生

→結果縦断の旅は実現しないが仕事のみ発生（捏造の旅がスタート）

国内情報は2~3人のネットワークを駆使すればすぐにつながる。

- hanare project (京都)
- 梅香堂 (大阪)
- アートスペーステトラ (福岡)
- monne porte (波佐見)
- 遊戯室 (中崎透+遠藤水城) (水戸)
- ココラボラトリー (秋田)
- Maemachi Art Center (MAC), Midori Art Center (MAC) (山口、青森)

# Maemachi Art Center(MAC)



成立過程；異なった文化施設で働くスタッフのシェアハウス  
友人が滞在できていつでもいつまでも宿泊できる場所  
個人ネットワークでほとんど成立  
公共機関のノウハウや関係をポジティブを活用すること

あそび・捏造・既成事実化・アーカイブを実践。

# アートセンターのパロディ

- ・そもそもアートセンターではなくて単なる一軒家
- ・名付けてしまえばどこでもアートセンター
- ・飲み会、パーティ会場、宿泊場所
- ・秋吉台国際芸術、山口情報芸術センター、NPO法人YICAの招聘アーティストは必ずMACにやってくるという流れを定着させる。
- ・宿泊費・滞在費ゼロ→作家は作品を残していく。
- ・アーティストの中崎透がMaemachi art centerと半分冗談のあそびで名付けて、勝手に看板を残していった。
- ・MACという愛称が定着。（若干恥ずかしい感じがよかった）
- ・誰かアーティストとか友人が来たら必ず飲み会を開催。
- ・すべて記録し公開する（“アーカイ美みんぐ”というユニットのサイト）
- ・勝手に居着くアーティストが出現し、なしくずし的にレジデンス状態となる（作品も勝手に所蔵されていく）→作品の定義や線引は住人次第。

# 関係をフラットにすること

飲み会という無礼講の場をポジティブに活用

MACに来た時点で大御所作家も近所の人も関係はフラット化される

(同じ飲み会に参加しているという共犯関係)

## 捏造の手法

異邦人の話はみんな聞きたい。

→飲み会なら誰でも聞ける

→異邦人を中心に話が展開される

→見方を変えるとアーティストトーク

→記録・公開により捏造は既成事実化されている。

(自治体が求める実績が完成)

地域のためにとか、地域文化の向上という「大義」はほぼゼロ

公共施設への体制へのカウンターという感覚もない(文化施設の人間だし)

単純にやりたいことをやりたいときにやる“あそび”

批判や批評というよりもなりゆきやゆるさに流されてみる

ちなみに目的達成に必要ななら地域のためにといい自治体からもお金は獲得もらうし、現状は近所の子供のたまり場でアートセンターというより溜まり場

## Re-Fort PROJECTによりアートセンター的活動を展開するはめになる

### Re-Fort PROJECTについて

- ・ 公共機関では実現しにくい（戦争を扱うこと、タイミングなど）
- ・ しかし面白いプロジェクトは実現したい→MACをアートセンターとして捏造
- ・ 公共機関で働いているという状況をポジティブに利用  
→情報、人脈、ノウハウ、機材など
- ・ 個人で責任を負う代わりに、すべてその場の判断で物事が決まっていくこと
- ・ blog, youtube, twitterなどが主な広報媒体（一瞬で合宿参加者40人に達する）
- ・ 全国から40人以上がたった1分30秒の昼間の打ち上げ花火にやってくる



# Midori Art Center (MAC)@ホテル山上

その場所自体やものの文脈として面白いスペースを模索

- ・ ホテル山上という変な場所を発見  
→ デザイン的にもコンテクスト的にも魅力的。
- ・ ホテルに寄生（パラサイト）して既成事実化する
- ・ MACが増殖化計画（名前が増殖すること、事実が捏造されていくこと）



# ふたたびオルタナティブとは？

## 捏造・既成事実・収集による新たな公共圏拡張のあそび

- コミュニケーションのあり方の変化（物理的距離よりも価値観の相違による距離や空間の隔たりが、より如実になっている）
- 発送されたチラシより、SNSやtwitterなどを介して友人や知人が発信する個人の口コミのほうが信用されるし、求めている人に届きやすい状態になっている。そして迅速で波及効果も高い。
- ある地方で起こっていることが、全く違う場所にいる人にダイレクトに届き、思わぬ連携や訪問が発生。内輪の問題が勝手に拡張される
- アートと捉えられていなかったものが突如アートの文脈に登場する
- 個人から公共圏が生成される（（例）佐藤修悦とトリオフォー）  
新宿駅のサインが現代美術館で展示されるまでのプロセス→ものの価値づくりが多数の人の手を介して行われる。